

令和元年度「第5回 東日本連携・創生フォーラム」議事録

【開催概要】

- 1 日時 令和元年10月31日（木）15時から17時10分まで
- 2 場所 清水園3階（さいたま市大宮区東町2-204）
- 3 出席者

【連携都市】

谷口 諭	函館市 副市長
藤尾 善一	盛岡市 副市長
蝦名 葉子	仙台市 総務局東京事務所副所長
室井 照平	会津若松市長
塩田 寿美恵	宇都宮市 経済部観光交流課長
渡辺 美知太郎	那須塩原市長
笠木 淳司	みなかみ町 副町長、
長井 亮一	新潟市 経済部長
森田 誠	三条市 経済部営業戦略室長
東川 玲	魚沼市 副市長
高野 藤夫	南魚沼市 産業振興部長
森田 博之	氷見市 産業振興部長
村山 卓	金沢市 副市長
柳原 渉	上田市 政策企画部長
清水 勇人	さいたま市長（ファシリテーター）

【司会】

加藤 響子（テレビ埼玉アナウンサー）

【オブザーバー参加連携自治体】

古町 有加	八戸市 東京事務所長
長谷川 悌一	山形市 東京事務所長
伊藤 恵子	郡山市 建設交通部総合交通政策課主査

【来賓】

齋藤 健一	さいたま市議会 総合政策委員会副委員長
小森谷 優	さいたま市議会 議員
大野 孝広	財務省 関東財務局総務部次長
栗山 省一	農林水産省 関東農政局埼玉県拠点地方参事官室総括農政推進官
岡 哲夫	国土交通省 関東地方整備局副局長

4 次第

- 1 開会
- 2 参加者紹介
- 3 議事討論
 - (1)広域周遊ルート策定研究会検討状況について（さいたま市）
 - (2)オリンピックを契機とした連携事業について（函館市、新潟市）
- 4 報告事項
 - (1)甦れ、自分。みなかみヘルスツーリズム（みなかみ町）
 - (2)雪を利用した熱中症予防対策（南魚沼市）
 - (3)スポーツコンテンツを活用した連携（上田市）

- (4) Jリーグチームによる連携（金沢市）
 - (5)修学旅行の誘致による連携（金沢市）
 - (6)教育旅行の誘致による連携（会津若松市）
- 5 報告事項 2
 - (1)商工会議所・商工会連携について（さいたま商工会議所）
 - (2)東日本連携推進協議会について（東日本連携推進協議会）
 - (3)まるまるひがしにほん(東日本連携センター)について（さいたま市）
- 6 総評(さいたま市)
 - 7 フォトセッション
 - (1)写真撮影
 - (2)共同記者発表
 - 8 閉会

「1. 開会」さいたま市長：清水勇人

みなさんこんにちは。只今ご紹介をいただきました、さいたま市長の清水勇人でございます。本日は、第5回東日本連携・創生フォーラム in さいたまの開会にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げたいと思います。まず初めに、このたびの台風19号で尊い命が多く失われました。また、建物の倒壊、あるいは床上、床下浸水など、たくさんの皆様が被災をされました。心からお見舞いを申し上げます。また、このフォーラムのメンバーとして参加されている自治体の方々も多くの被害を受けたのではないかとと思いますが、これからもそういった面でも、いろんな連携をして復旧そして復興に向けて力を添えてやっていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。さて、北海道、東北、秋田、山形、上越、北陸の、新幹線沿線の自治体の首長をはじめ、関連機関の代表の皆様におかれましては、本フォーラムの趣旨にご賛同、ご参加をいただき、厚く御礼を申し上げたいと思います。さいたま市では、各都市がそれぞれの地域を超えた広域的な連携を推進することによって、そして日本全体の、東日本全体の経済の活性化、また、地方創生につなげていこう、東日本を元気にしていくための活動を目指してこのフォーラムを開催いたしております。

今年3月28日には、本フォーラムでもご議論いただきました連携拠点、情報発信拠点として、まるまるひがしにほんがオープンいたしました。ご参加の各都市の皆様にも、このシティプロモーションイベントのご出店をいただいたおかげもありまして、オープン以来、オープンしてちょうど半年ほどでありますけれども、すでに40万人を超える方々にお越しをいただいて、また多くの東日本の素晴らしい良いものを購入をさせていただいたり、市民の皆さんに買っていただいたりというような状況になっております。まるまるひがしにほんでは、本日も報告がございますけれども、函館商工会議所とさいたま商工会議所の商談会が開催されるなど、ビジネス交流についても取り組みの強化をいたしております。今後も、まるまるひがしにほんにおきまして、連携、各都市をはじめとする東日本の情報発信を行うことで、東日本各地の地域活性化、あるいは、交流人口の拡大を図ってまいりたいというように考えておりますので、よろしくお願いいたします。皆様には「ヒト、モノ、情報」が集積するこの大宮の地を大いにご活用いただくとともに、各都市間の相互のより強固な連携を深めていただいて、東日本の地域創生に、東日本全体の、地域のさらなる振興につなげていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。また、そのために、いろいろ今日はご議論をいただくとともに、またぜひ賛同いただける皆様には、この事業にも積極的に参加をいただいて、とにかくやれるところからやっていると、ご賛同いただけるところから進めていくという方式で、これからも多くの皆様のご協力を得ながら進めていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。今日は最後までどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

「2. 参加者紹介」

- ・参加自治体紹介
- ・オブザーバー紹介
- ・来賓紹介

「3. 議事討論」座長：さいたま市長

座長：2つの議題について議論、その後各事項についての報告、各議題は提案都市より提示、座長から各自治体へ意見を伺い、とりまとめ事項に同意頂けるかお諮りする。

(1) 議題1「広域周遊ルート策定研究会検討状況について」

さいたま市清水市長 議題1ご説明（議題1資料1～4ページ）

議題の1、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を題材とした連携についてということでございまして、まず（1）広域周遊ルート策定研究会の検討状況について、（2）オリンピックを題材とした連携事業について、それぞれ報告を行いたいと思います。まず、私の方からご報告をさせていただきたいと思いますが、広域周遊ルート策定研究会の検討状況についてでございます。本事業は、さいたま市からの提案でございます。東京2020大会を題材としたプロモーション、アメリカをターゲットとしたプロモーションについて私から説明をさせていただきます。本事業は昨年開催をいたしました第4回東日本連携・創生フォーラムにおいて、実施を決定したものでございます。東京2020大会において、本市がバスケットボールおよびサッカーの競技大会が行われることになっておりまして、160万人の観戦客等が見込まれております。特にバスケットボールはさいたまスーパーアリーナで男女全試合が開催をされるということになっており、特に優勝候補のアメリカをターゲットとしたプロモーションを行っていこうというものでございます。160万人のうち、だいたい2割、30万人ぐらいは外国人の方ではないかと見込んでいるところでありますが、今年度については在日外国人によるワークショップを開催しまして、ウェブサイトの制作、またはFacebookを活用した広告、ムック本の作成を予定しております。ワークショップにつきまして、函館市、新潟市、金沢市、南砺市、上田市の各都市にご参加をいただきまして、今年の6月に開催をいたしたところであります。延べ36人が参加をいたしまして、各都市の観光資源の評価、または作成するウェブサイト、Facebook広告、ムック本についての効果的な発信方法について、意見を交換させていただきました。ワークショップで出た意見も参考にさせていただきながら、制作を進めておりまして、Facebook広告、ウェブサイトについてはまもなく公開をする予定でございます。ここで、Facebook広告を配信する動画をご覧いただきたいと思います。

（動画放映）

それでは次に参りたいと思いますが、令和2年度のスケジュールにつきましては、来年度についても今年度実施している事業を継続していることに加えまして、在日外国人によるワークショップの中で、情報源としてユーチューバーを好むという意見もあったことから、インフルエンサーとなっているユーチューバーを活用したPRなども実施してまいりたいと考えております。東京2020大会開催時は、本市に多くの観光客が訪れるほか、メディアへの露出の期待もできるため、本市をはじめとする東日本地域の外国人観光客への認知度向上に向けては、またとない好機であります。東日本地域への誘客の促進のため、大会終了後も見据えながら、持続的に事業を実施して参りたいと考えております。説明につきましては以上となります。ご発言がございましたら、挙手をお願いしたいと思います。

那須塩原市渡辺市長

那須塩原市長の渡辺美知太郎です。那須塩原市は、オーストリアのリンツ市と姉妹都市を結んでおりまして、オリンピックとか文化関係は、オーストリアとよく提携をしております。観光も、どこの自治体も、台湾や中国語圏の方々がいらっしゃると思うので、うちもご多分に漏れず台湾と中国、それから個人的なご縁があってベトナムともいろいろやりとりさせてもらっているのですが、アメリカっていうのは、あまり意識したことがなく、台湾の方であればきっとこういうふうによればある程度反応があるだろう、などとか、わかるのですが、例えばアメリカ人に対してどのようなアプローチをするのか、どういうものにアメリカの方が興味を持っているのかって、ちょっとわからないので、そのあたり、アメリカに特化しているわけではなかったら申し訳ないですけど、アメリカ人が好みそうな、そういう文化とか、例えばうちは温泉もあるので、そういったものがあればちょっと教えていただけないでしょうか？

さいたま市清水市長

どなたかいますか？ それでは私のほうからちょっとお話しさせていただきますけれども、今年、ワシントンとニューヨークに行ってきて、日本大使館、それから日本政府観光局のほうにもちょっとお邪魔をしてみました。アメリカの方々も、やはりバスケットの人氣が非常に高いということもあって、恐らくオリンピックでも多くのアメリカ人が訪れるだろうというお話をされておりました。その

中でやはり、日本的なものについては大変アメリカでも人気があるということをお話されていまして、それぞれの地域の文化をうまく発信することで誘客が可能ではないか、と思います。また、今ちょうど、ユーチューバーであったり、あるいは、外国人、アメリカ人の方々にご参加をいただいて、意見交換なども併せて行い、それぞれの地域の文化が、あるいはそういう取り組みが魅力的なのかということについて、ぜひそれぞれの地域で、ターゲットといいますか、発信するものをさらに強化をしていただいて、発信できればと思います。ご案内のとおり、さいたま市は、宿泊施設があまりないという状況がございまして、オリンピックまでは少しビジネスホテルベースでいうと、1,000 ぐらいは増えることになってるのですが、今大会の会場の近くのホテルはもうほとんどすべてオリンピック組織委員会に押さえられているという状況がございまして、多分東京か、あるいはそれ以外の都市に宿泊されるということになるのだらうと思いますので、ぜひ新幹線で極めて時間、距離が短い東日本の皆さんのところにぜひ私たちもつなげていきたいという思いもありますし、また、来てくれた皆さんにはぜひそちらにつなげていければと思っております。160 万人ぐらい来ることが想定されておりますので、ぜひまた皆さんにもいろいろご意見を頂戴しながら、できればと思っております。

会津若松市室井市長

会津若松市でございます。会津若松のインバウンド、東北全体が、まだまだ遅れているわけですが、台湾、タイが比較的多く、欧米系というとアメリカも、アメリカの立地企業もあるものですから、エンジニア等が来て交流はしているわけですが、このオリンピックについては外国人誘客への取り組みとして「SAMURAI CITY」という商標をとらせていただいておりますので、こちらのさいたま市さんの駅から、シャトルバスの運行をぜひさせていただきたいなと思っておりまして、侍の格好をしたアテンドを乗せまして、ちょっと時間はかかるのですが会津若松まで来ていただけるような取り組みをぜひやらせていただきたいので、また地元に来た時に観光コンテンツを含めたパスを造成しまして、観光周遊を比較的容易にするような作戦を練っていきたくと思いますので、ぜひ支援をいただければと思います。よろしく申し上げます。

新潟市長井部長

新潟市は姉妹都市でアメリカの都市と締結をしているところがありますので、そういったところとは連携をしていければということでは思っています。

例えば、日本酒の輸出量は年々増えているのですが、量・金額ともに第1位がアメリカです。なので、そういう興味というか関心というのはアメリカであっても高いのではないかと思います

函館市谷口副市長

私どもインバウンド、非常に来ていただいているのですが、やっぱり東南アジア、アジアが多い状況にございます。まだ欧米系の人たちは少ないです。クルーズ船もよく来ていただいておりますので、その中に欧米の方もいますけれども、ですから裏を返せばそれだけ伸びしろがあるということですので、今回の2020の大会を契機に新幹線等を使って、足をのばしていただければなということでも期待をしている部分はあります。

さいたま市清水市長

比較的、アメリカの方は長く滞在をされたり、アメリカは物価がものすごく高いので、日本のホテルなんかはオリンピックになると高くなってしまおうのでしょうけれども、そういう意味では、日本の物価が安く感じるような印象を、先日行ったときには受けました。ですから、さいたま市の盆栽、あるいは盆栽博物館のお話をちょっとさせていただいたのですが、例えば体験教室、2、3,000円ぐらいというようなお話したら、そのぐらいの安い金額でできるのだたらもう、皆さん飛びつきますよっていうようなお話もあったり、比較的そういうことに飢えてる方もたくさんいらっしゃるということです。特に、バスケット、アメリカの中で人気が高いということもございまして、バスケットは特にアメリカを意識した放送になるというふうにも聞いておりますし、そういう意味では、今までどちらかというやはり、さいたま市もそうですけど、アメリカをターゲットに、アメリカ人をターゲットにというのは、比較的少なかったのではないかと思います。1つのチャレンジでもあろうかと思っておりますけれども、そんな取り組みができたらまた面白いのではないかと考えております。ほかには、いかがでしょうか？みなかみ町さんいかがですか？

みなかみ町笠木副町長

みなかみ町の笠木と申します。私たちの町は、さきほどちょっとお話があったように東南アジアというか、台南と友好協定を結んでおります。最近タイからのお客が増えているということで、なかなかまた欧米系はですね、まだまだこれからかなと思っております。ですので、今回をきっかけに、さまざまな、ツールを活用して、温泉とか自然というものは、我が町にはたくさんいいも

のがありますので、そういうものを皆さんと連携をして、発信をしていけたらと考えております。

氷見市森田部長

氷見市、富山県全体に言えるのですが、どうしても台湾、中国、韓国、東アジアの方へ向いていることが多いものですから、今、いろいろとお話を聞いたんですけど、なかなか欧米と、先ほども話が出ましたけれども、なかなかピンとこない部分も、実は正直言ってございます。ただ、今回、こうやってアメリカから当然バスケット、最終日と前日に、最終日が女子の決勝だったかなと思っておりますけれども、たくさん来られる中でこのアメリカの方にどういふふうにしていけばどういふふうに響くのかっていう、これ自身、どんどん来ていただくのもそうなんですけど、響き方っていうのも、どうすればいいのかっていうことが、わかるのかっていう部分では、すごくやってみる価値があるんじゃないかなと個人的には思っています。

上田市柳原部長

上田市でございます。私どももインバウンドにはいろいろ力を入れているわけですが、たまたま、昨年度、今年度とラグビーワールドカップの事前合宿がありまして、イタリアチームをお招きいたしました。その中でイタリアの連盟の皆様にも、私ども別所温泉があるのですが、非常に日本らしさを好まれて、特に旅館で出る懐石料理に対しては、もう芸術だと言われて非常に感激をされていました。ですので、やっぱりアメリカの方を呼び込むのも同じなのかなと。やっぱり上田らしさ、日本らしさをいかにアピールできるのか、そのあたりがキーワードじゃないかなと思っております。私どもも本年度ホームページも改定ということで、今作業を進めておりますので、そういった部分でも、日本らしさ、上田らしさをアピールできればいいかなというようなことで、また、さいたま市さんともいろいろ連携させていただきながら、お願いしたいなど。大宮から新幹線で1時間ありますので、そのあたりもアピールさせていただきながら、やっていければなというふうには思っております。以上でございます。

さいたま市清水市長（とりまとめ）

ありがとうございます。ほかにはいかがでしょうか？それでは、皆さんからいろんなご意見を出していただきましてありがとうございます。今のご意見などを受けまして、東京2020大会開催に向けて、アメリカ人とのワークショップなどを行いまして、このアメリカというメインターゲットに対して、効果的な情報発信に向けて、取り組みを進めておりますので、試合観戦前後、周遊につなげることを目標にして、今年度から実施している取り組みをさらに継続をして、それぞれの地域の、アメリカの方々にまさに先ほどの渡辺市長さんのお話ではありませんが、刺さるPRを、ぜひ共同で進めていきたい、こんなふうには思っておりますので、よろしくお祈りします。皆さんいかがでしょうか？はい。それでは議題1はそのような方向で取りまとめをさせていただきたいと思っております。

以上で議題1終了

(2) 議題2「オリンピックを契機とした連携事業について」

さいたま市清水市長

続きまして、議題の2でございます。オリンピックを契機とした連携事業についてということで、その1つ目として、函館市さんからご提案をいただきました（仮称）イーストニッポンラウンドトリップキャンペーン事業と、それから新潟市さんからご提案をいただきました（仮称）イーストジャパン酒フェス2020について、議論をしたいと思っております。まず、初めに（仮称）イーストニッポンラウンドトリップキャンペーンについて、函館市の谷口副市長からご説明をお願いしたいと思います。よろしくお祈りします。

函館市谷口副市長「（仮称）イーストニッポンラウンドトリップキャンペーン事業について」（議題2資料1～4ページ）

はい、それでは当市の提案の、仮称ではありますがイーストニッポンラウンドトリップキャンペーン事業について、ご説明をさせていただきます。まず事業の目的ですけれども、東京2020大会の開催期間中に、さいたま市において行われますバスケットボールなどの競技を観戦する外国人、主にアメリカ人になるのかと思っておりますが、をターゲットとしまして、東日本の連携自治体を周遊する動機付け、関心をもってもらうと、そういうことを目的としております。方向性としては、昨年の第4回の東日本連携・創生フォーラムにおきまして、当市からイベントの集中開催事業、それから交通パスとのタイアップ企画を提案していただきましたけれども、これまでの間、東日本連携の広域周遊ルート策定研究会において、さまざまなご意見等をいただく中、より多く

の自治体が参加可能となるようにイベント情報や二次交通チケットの情報を集約して発信するほか、大会期間中に共同でのキャンペーンを実施するという内容に見直しをいたしまして、提案をさせていただいたものであります。次に具体的な取り組みですが、令和元年度につきましては、各地のイベントの開催情報、二次交通チケットの情報を抽出しまして、さいたま市さんが実施する委託事業の中でウェブサイトそれからムック本により発信してまいります。それから令和2年度につきましては、新幹線沿線ごとに周遊するテーマを設定しまして、その周遊を促すキャンペーンを実施、そしてこのキャンペーンをきっかけに、周遊の促進、認知度の向上を図っていくことを考えております。いずれにしても効果的なプロモーションを行っていきたくて考えております。そのプロモーションですが、旅マエ、旅ナカ、旅アトという3つのステージに区切りまして、効果のある告知展開を考えておりまして、一つ、旅マエとしますと、オリンピックの始まる前、大体来年の4月から6月ぐらいの間を想定しておりますけれども、海外旅行情報サイトへの記事投稿、それからジャパンレールパスの米国指定販売所でのPR等を行いたいと考えております。それから旅ナカ、これはオリンピック、パラリンピックの開催期間の、その前後1週間を付け加えた期間と考えておりまして、その旅ナカでは新幹線沿線ごとに周遊のテーマを設定しまして、周遊を促すキャンペーンを実施していきたい。それから旅アト、これはオリンピック、パラリンピックの終了後になりますけれども、さいたま市さんの委託事業の中で、インフルエンサーを活用しました口コミ拡散などをそれぞれ行いたいと考えております。事業の実施にあたりましては、事業展開のための必要経費等を勘案しまして、参加自治体当たり約65万円の事業費というものをご負担いただければなと思いますが、委託により実施をしていきたいと考えております。この事業費につきましては、若干まだ精査は必要かと思っておりますけれども、現在のところ、当市のほか含めて13自治体が参加の意向を示していただいているところでございます。まあ詳細は今後詰めてまいりたいと思っておりますけれども、参加自治体の皆さんと共同でキャンペーンを実施し、大会期間中の周遊はもとより、終了後の来訪を促すためのプロモーションを効果的に行っていきたくて、考えておりますので、よろしくをお願いをいたしたいと思っております。それから名称は仮称で、イーストニッポンということをしておりますけれども、次の新潟市さんはイーストジャパンでもありますので、この辺は仮称ですから、ちょっとまた今後、調整をした方がいいのかなと、思っておりますので、よろしく申し上げます。私からは以上でございます。

盛岡市藤尾副市長

イベント情報、二次交通チケットの情報を集約して発信をするということは非常にいいことだと思います。特に、イベントの中でも、食だとか、いろいろ提供するイベントがあるのだと思いますけれども、最近では体験ですね。日本古来の文化、武道だとか、そういったものを体験する外国人の方も増えているということでございますから、かなり苦労して修行するような、そういう体験イベントじゃなくて、ちらっとでもですね、日本のそういう文化、精神文化みたいなものにふれることができるようなですね、そういったようなものも盛り込んだらいいのではないかな、ということが1つ言えます。それからもう1つは、せっかく連携してやるわけですから、周遊の実績、ビックデータとっていいのかわ、そういう大袈裟なものでもなくても、やった後の、その評価をみんなで共有して次の作戦に結び付けてくと、いったようなところも道筋として、明らかにしておけばいいのではないかなというふうに思います。それから3つめですが、さっきのところでは言えばよかったのですが、ちょっと出所が不明でございますが、アメリカ人というのは、その旅行関係の情報を収集するときには、SNSがほとんどであるというようなことでございますので、そういったようなものをどんどん活用していったらいいのではないかと思います。SNS、ちょっと内訳書いたものがあったのですが、どっかへいっちゃいましたので、そのうち出てきたらまた報告します。以上です。

宇都宮市塩田課長

宇都宮市です。宇都宮市におきましては、ぜひこの企画のほうに、参加をさせていただきたいと考えております。本市におきましても観光資源、豊富にいろいろとございますが、なかなか本市単独では、やはり、インバウンド対応というのは厳しいところがありますので、ぜひこの連携を糧に積極的な情報発信をやっていきたいと考えているところなんです。1つちょっとお願いがあるところは、旅マエ、旅ナカの取り組みにつきましては、当然一緒に連携を図りながら、どうやって情報発信をしてより多くの観光客を呼ぶかといったこの取り組みなのですが、ぜひ、せっかく旅ナカで呼んだ観光客を、引き続き各自治体にも継続してつながっていけるような旅アトの取り組みにつきましても、ぜひ連携の方を深めて強化させていただければ大変ありがたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

新潟市長井部長

今回の情報発信という中で、各地におけるイベントの情報はもちろんのことなのですが、せっかくなので、連携市による共同事業

というものも考えながら、集客効果をさらに高める方策っていうものも考えていきたいと思っています。いずれにしても、地域経済の活性化につながるような、地域にお金を落とすだけではないようなそんな仕組みというか、事業というものを考えていきたいと考えています。

魚沼市東川副市長

魚沼市ですが、今回の提案については非常に、評価したいと思いますし、東日本連携・創生フォーラムにはさまざまな自治体が多く参加しているということで、それぞれの自治体ごとに非常に特長のある観光資源を持っていると思います。魚沼市で言えば、例えば冬の間は、スキーを毎年1月、オーストラリアのパス市から高校生なんか来てくれたりしておりまして、そういう交流などもございますので、このラウンドトリップの中で、例えば季節ごとにそれぞれの自治体の特長を結びつけて、周回してもらうようなことも加盟自治体、東日本いろいろな地域ございますので、可能になるのではないかと考えております。

会津若松市室井市長

やはり周遊をどうしていただくかということのチャレンジだと受け止めさせていただきました。2021年にはDCが東北6県で開催されますので、そのプレのイメージでどの程度我々として取り組めるか、少し検討させていただきたいと思っています。日数を重ねてこられる方にとっては、ジャパンレールパスを使いますと、移動に対する負担感というのはあまりないように思いますので、それをどう受け入れるかというのは、商品造成にするのかどうかというのはちょっとわかりませんが、やっぱり、私どもとしては新幹線沿いじゃないので、できれば泊まっていたいて、経済効果があがるようなものの方がありがたいなとは思いつつ、先ほど申し上げた周遊の形をどう作っていくかというチャレンジ市としてとらえさせていただいて、検討させていただければと思います。どうぞよろしくをお願いします。

那須塩原市渡辺市長

ちょっとお尋ねしたいのですが、今、室井市長がおっしゃっていましたが、その新幹線の負担感といいますか、特に先ほども申し上げましたけど、例えばアメリカ人の方って、日本の新幹線を使うっていう、その感覚というのは、どのくらいあるのか、結構その新幹線を使われてアメリカ人の方がいらっしゃるのか。函館市さんと飛行機とかもありますけど、新幹線を使って来るっていう感覚が、アメリカ人のお客さまっていうのは、どのくらいお持ちなのかって、うちはこういうふう把握しているとかあれば、ちょっと教えていただけないでしょうか？

会津若松市室井市長

じゃあ、ちょっとだけ、間違ってたんですけど。個人旅行がアメリカのほうは多いような気がしまして。ジャパンレールパス、確か7日間で3万円ぐらいでしたっけ、あまり高くない金額なので、各所降りていっても、泊まるか泊まらないかは別として、逆に負担はあんまり感じないで移動ができると。うちは第三セクター鉄道があるので、そのつながりが非常に難しい。そっちに誘導しようと思っても、どうしてもジャパンレールパス優先で、バスを使っただけではないのですが、でも先ほど申し上げた周遊するためには、いろんな行程が必要なので、ぜひ、可能性としてはかなりあるのではないかと、費用負担としては軽いというふうに我々は思っています。

函館市谷口副市長

私も、つたない知識ですけど、やはりレールパスは本当に割安だと思いますし、アメリカ人は滞在日数もやっぱり長いですから、2週間とかそういうものを活用して。で、今はやはりどちらかというと東京から大阪、京都のほうがやっぱりゴールデンルートで一番多いので、それを、そういう人たちを少しでもこう東の方に向けて、というのが今回やっぱり1つの狙いなのかなと思いますので、その辺はうまく仕掛けをすれば向いてくれるし、関心はもってくれるかなっていうのは思っています。

さいたま市清水市長

あと、私たちからいうと1つは、オリンピックの期間、いろんなオリンピック関連のイベントはあるのですが、例えば、お祭りとか花火大会とか、警備を要するイベントとか、ああいうのは実を言うと、かなり制限されている可能性が高いので、例えば首都圏で経験できないようなことなども含めて、こつ情報共有していただけると、例えばそれを見に行こうとか、というようなことにもなるのかもしれないし、開催をしている地域とそうでない地域の、実施しているイベントというか、発信できる文化情報なども工夫していくと、さらに誘客力が高まってくるのではないかと感じもいたしております。

魚沼市東川副市長

今ネットで調べたのですが、7日間で大人グリーン車で39,600円、普通車だと29,650円、14日間でも47,250円ですから、か

なりお安い価格ではあるなと思いますね。最近、あの新幹線に鞆置くスペースを、席を削っても作られてるのは、この利用が増えてきて荷物の置き場所に対応されてるのかなと思います。

さいたま市清水市長

比較的、アメリカの場合は移動距離が旅行するにしても長いと言われておりますので、多分3時間ぐらいですと、そんなに長くは感じないのではないかとされていますので、比較的東日本連携の地域だと函館市さんも入れても多分3時間、一番遠い所でも3時間40分ぐらいですと、まあ、それより近いところが大半ですと、移動しやすい可能性はあるのではないかと思います。

盛岡市藤尾副市長

先ほどの情報収集の内訳で、アメリカ人の場合ですけれども、YouTubeが6割、Instagramが24%、Facebookが4%の割合で利用しているという、そういうデータがございます。

さいたま市清水副市長（とりまとめ）

ほかには何か、ご意見ございますでしょうか。それでは、本日台風19号の影響で、オブザーバーでご参加をいただいている郡山市さんからも、参加の意向で調整を進めていると伺っておりまして、7月下旬に毎年開催している夏の恒例のビール祭りをはじめ、各種の夏のイベントに多くの訪日外国人が訪れることを期待している、というコメントもいただいております。集客効果を高めていくために、新幹線の路線ごとにテーマを設定して、沿線都市が連携して誘客事業を行うなど、効果的な事業となるように事業内容について連携市と検討を行いながら、オリンピック見てるときには見られなかった、あるいは体験できなかったことなど、積極的にPRしていただけると、有形効果がさらに高まるのではないかなというように思います。みなさん、いかがでしょうか。では、そういった方針で、進めさせていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。それでは続きまして、新潟市さんご提案の仮称「East Japan Sake Fes 2020」について、新潟市の長井部長さん、よろしくお願ひしたいと思っております

新潟市長井部長「（仮称）East Japan Sake Fes 2020について」（議題2資料5～8ページ）

昨年、外国人を対象とした日本酒のイベントを提案させていただき、その後、これまで具体的な検討をさせていただいておりますが、まず提案者としての思いについて、お話をさせていただきたいと思っております。現在、日本酒の海外需要は、先ほども申し上げましたが順調に伸びてきています。海外の方に日本酒を直接売り込むことができる機会はそうそうないので、大きな魅力であるということとを地元の酒造組合の関係者からも聞いています。実際、日本酒造組合の発表によれば、昨年日本酒の輸出量は、前年比プラス10%で、金額にしてプラス19%、かつ9年連続で過去最高を更新しているとのこと。先ほどもお話ししましたが、その第1位が、量、金額ともにアメリカであり、日本酒への関心が非常に高い国であるということが言えると思っております。東京2020オリンピック競技大会では、さいたま市でバスケットボール競技が開催されます。バスケットボールといえば、NBA、アメリカ、ということになりますので、多くのアメリカ人の来訪観戦が期待されているというこの機会に、さいたま市内で、日本酒のイベントを開催することで、外国人、特にアメリカ人の日本酒のファンを増やしたいと。そして、海外輸出のさらなる活発化につなげていきたいと思っております。本市でも、海外展開に関心のある酒蔵が複数ありますので、官民でしっかりタッグを組んで輸出の増加につなげていくことができるよう、イベントを成功させたいと考えておりますので、一緒に盛り上げていただければと思っております。

さいたま市清水市長

ありがとうございます。事業の概要については、私の方から、少し説明をさせていただきたいと思っております。目的でありますけれども、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会で来日された訪日アメリカ人を主とする外国人に対しまして、日本酒のPR、そして、販売を行おうというものでございます。新たな顧客層の開拓と、また、海外輸出に向けたテストマーケティングを行い、各都市の酒蔵に興味を持ってもらって、インバウンドの増加にもつなげていただこうというものでございます。方向性といたしましては、より多くの日本酒PRを行えるよう東日本連携都市をはじめとする東日本地域の自治体に出店依頼を行うほか、外国人向けに英語でのイベント情報発信、また、日本酒と料理のペアリングイベント等の企画により、多くの外国人にPRができるよう事業内容の検討を行う予定でございます。日時は令和2年8月8日土曜日、そして、9日曜日を予定しております。主な対象といたしましては、さいたまスーパーアリーナで開催されますバスケットボール大会の男子、女子の決勝戦に訪れたアメリカ人を主とする外国人を考えております。会場は大宮駅西口のパレスホテル大宮で、開催する予定でございます。メイン会場を各都市酒蔵による日本酒の試飲と販売、セミナー会場を日本酒と料理のペアリングセミナーと2つに分けて催しをやっていきたいと考えており

ます。来場者は2日間で5,000人を目標と考えております。今後のスケジュールといたしましては、引き続き、新潟市さんをはじめとする出展都市と開催に向けた具体的な検討を行ってまいりたいと考えております。説明は以上となりますが、この件につきましてご意見等がありましたらお寄せいただきたいと思います。いかがでしょうか。

会津若松市室井市長

お酒なので、ぜひ参加させていただきたいと思っています。いろんな味がお酒にもありますし、我々、外国はまだ個人で輸出されているところも若干あるのですが、町全体としての取り組みとしては弱いので、この機会にぜひ、みんな飲み比べをしていただければと思います。よろしくお祈りします

みなかみ町笠木副町長

うちは、実はあの、日本酒、酒蔵はないので、ちょっとうらやましいなと思うのですが、逆に、自慢話を聞きたいなと思って、うちの町の酒蔵は、例えば、すごく売れてるんだ、とかなんか、海外とすごくつながってるんだとか、ちょっと自慢話できる方から、自慢話を聞きたいなと思って。うち、酒蔵ないので、うらやましいなと思ってのんですけども。

新潟市長井部長

にいがた酒の陣は3月の第2土日に基本的に行うのですが、昨年は2日間で14万人が来場しました。そのうち半数以上が多分県外だと思うのですが、アメリカ大使館の方がいらっしゃったりとか、海外の方もいらっしゃいます。県内には約90の酒蔵があるのですが、500種類のお酒を一堂に集め、1万人規模収容の展示ホールで2日間にわたって開催するというのをやっております。今年で17年目、東日本大震災の年が開催されなかったのが16回目ですけども、年々入場者が増えて、警察からもちょっと危険なので、ということで今年から開催方法が変わります。今までは、2,500円払うと丸一日朝から晩まで、何十杯でも飲めたんですけども、来年はチケット制にして、20枚つづりを前売り2,000円、当日券2,500円、追加チケットが10枚つづり500円で販売されるというような内容に変更される予定です。観光面では、アジアの方からのお客様で、酒蔵を見たいと言う方もいらっしゃいまして、新潟駅からほど近いところに酒蔵があるんですけども、そこが観光コースとして観光の案内経路を作り、観光客用の販売ブースも作ったりということで、そういう観光誘客の取り組みにも、一生懸命ご協力いただいている酒蔵さんも出てきております。また、昨年度、新潟市でお米とお酒のプロモーションビデオを作りました。お米の研ぎ方から始めて、味わい方とか、お酒もそうですけども、新潟の場合は、欧米の方はなかなかいらっしゃらないんですけども、中国の方は新潟に来られるとお米を大量に買って帰られる。アメリカをターゲットとしたものとしては、アメリカ大使館の方向けに、日本酒のペアリングのパーティーしたことあるのですが、その時は、あくまで洋食と日本酒ということで、例えば「このステーキにはこの日本酒が合いますよ」ってのは、ソムリエの田崎さんから監修していただいていたっていうのはやったことあります。お米の事業は、どちらかというアジア系の方が多いと思います。

上田市柳原部長

上田市は新潟市さんほどはないのですが、うちは、6つの酒蔵がありまして、ほとんど、個人で経営しているところが多くて、大きいところはひとつふたつなんですけども、やはり特色を出すっていうところで、酒蔵それぞれが競い合っていて、今回、「山恵錦」っていう米を共通で用いて、5つの酒蔵で作ろうということで、同じ銘柄の米で、それぞれが独自の発酵で売り出しているようなこともしています。それから、やっぱり個人でありますので、中にですね、女性の杜氏がお二人ほどいらっしゃいまして、あとは味噌ですとか発酵関係のお店、そういったところでも女性がおりまして、これを「発酵4姉妹」と呼んで、プロモーションを組みまして、こちらの会場にも去年お邪魔して、酒をアピールさせていただきました。やはり個性を打ち出しているというのが上田市のお酒のいいところなのかなということで、先ほど、ちょっとイタリアのお話もしましたが、イタリアのバイヤーの方、ラグビーのワールドカップの事前キャンプもありまして、そのつながりで、バイヤーの方が来られて、何社かと契約をされたようなことも聞いております。やはり外国人のみなさん、けっこう日本酒に興味があって、基本は皆さんワインなんですけども、やはり同じ発酵で日本酒にも非常に興味があるということをおっしゃっていますので、まあ今回、こういったことで、さいたま市さん、新潟市さん中心でやっていただきますと、おそらく大変な人気になるのではないかなと思っています。ぜひまた、よろしくお祈りしたいと思います。

南魚沼市高野部長

南魚沼市にも、酒蔵が3つあります。有名なところだと八海山、それから高千代、鶴齢とありまして、当然この事業につきましても、積極的に協力させていただきたいと思っていますし、新潟市さんほどの規模じゃないんですけど、この10月に魚沼市と共

同で、当市市内にあります新幹線の駅、浦佐駅の中に観光案内所を作りまして、その時に、米と酒の陣っていうのを行いました。浦佐駅オープン以来の賑わいを見せたということで、1日で約8,000人超のお客さんに来ていただきましたので、やはりお酒を絡めるとイベント成功するのかなと、私たちは思っております。以上です。

さいたま市清水市長

ありがとうございました。この中に酒蔵がないという自治体の方々もたくさんいらっしゃると思うのですが、酒蔵はないけども、もうひとつのそのペアリングのところで、料理とかですね、いろんな協力もしたいと、あるいは、参加もしたいという自治体のみなさん、いかがでしょうか。氷見さんなんかはいかがでしょう。

氷見市森田部長

うちの方で、小さな酒蔵がひとつある訳ですけども、いろんなところに出ていこうっていうって、一生懸命頑張っています。イベントがあったときに、多分、声をかければ、ぜひ、というふうに出てくるはずなんですね。だから、そういうところに、小さなところ、ベンチャーという言い方が、正しいかどうか分かりませんが、ぜひ参加もさせていただきたいと思っております。それで、今はこの案をそのまま見てのお話にさせていただきますと、メイン会場とセミナーとその他ということでございます。メインのところでもお酒を飲む、先ほど新潟市さんの方のイベントの中で、酒だけを置いてあったのか、ちょっとしたつまみが置いてあったのか分からないのですが、当然メインはお酒でございますので、酒を邪魔しないようにこういう小さな物の中にちょこっとお酒を飲みながら、つまめるような、もし、できれば小さなコップで、よく見れば分かるような感じで彩りを添えるというような感じ、やっていただければ、地酒がないところも、参加しやすくなるのかなと思います。ぜひ、お願いします。

新潟市長井部長

にいがた酒の陣でも当初は会場の一角でおでんやお寿司を出したりなど、限られたスペースで展開していたのですが、だんだん規模が大きくなってきて、その会場の外側、壁伝いに、30から40ぐらいテントを張って、いろいろな料理を提供しながら飲んでいただくと、今はそういう形になっています。

会津若松市室井市長

仮にうちが出るとしても、やはり蔵元ひとつで、この負担金、高いという感じもあるかもしれませんので、うちの場合だと、酒造協同組合っていうのありますので、そちらで出させていただくことにはなろうかと思えます。いずれにしても、外国の方に足を運んでいただいて、飲んでいただく。飲み方もいろいろありまして、香りのよいちょっと強めのやつだと広い口で、ワインの香りのように飲んでいただくっていうのも、会津でも、今、始めておりますので、おちょこだけじゃなくて、味わい方っていういろいろあると思えますので、逆にいうと外国の方にはどうやって飲んでいただいたらウケるのかという、挑戦もしてみたいと思っております。

盛岡市藤尾副市長

ことのほか、大好きな酒のことなので、やっぱり、今、会津若松の市長さんがおっしゃったように、味わい方を様々工夫する必要があろうかと思うんですね。日本酒、おそらく、何十種類、何百種類出てくると思いますが、その中のいくつかを飲んで、これが日本酒だっていうふうに感じていただくのではなくて、いろんな味があります

それから、赤ちょうちんで飲む場合と、フランス料理に合わせて飲む場合とか、ここで言ってるペアリングなのかもしれませんが、様々な場面で飲むことによって味わいが違うとかですね、そういったものをいろんなバリエーションを提供して、味わっていただくっていう、そういう工夫が必要なんじゃないかなと思います。あと、もう少し欲を言えば、この前のラグビーのワールドカップみたいにビールを飲みながら、観戦してますけれども、あのような形で、やはりスポーツとそういったものを組み合わせたことも、模索できるような試みができたらと思います。

宇都宮市塩田課長

先ほども申し上げましたけど、引き続き、新潟市さんの事業についても、前向きにご協力をさせていただきたいと思っております。本市におきましては、滞在時間の延長ということで課題になっておりまして、そのためには夜の宇都宮のPRということで、非常に力を入れているところで、今年DCにつきましては、アフターが終わったばかりなのですが、DCを契機に宮の酒フェスとか、カクテルバーツアーなど、やはり、お酒に力を入れたイベント取り組みをしていたところなのですが、なかなか日本酒については、ちょっと難しいところがありましたので、ぜひ宇都宮の夜の観光をさらに盛り上げるために、日本酒のPRをここに参加をさせていただいて、夜の宇都宮、宮、を積極的にですね、充実させて、滞在時間の延長につなげていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思っております。

さいたま市清水市長（とりまとめ）

ありがとうございます。ほかにはいかがでしょうか。ありがとうございます。日本酒は今、新潟市さんからもお話がありましたように、外国人からも非常に人気が高い物になっていて、これからかなり輸出がさらに増えてくるだろうということが予測されている中で、訪日外国人旅行者の地元への誘客、それぞれの地域の自然であるとか、お米であるとか、そういったものと非常にリンクをしているので、それぞれの特色が出しやすいというようなこともあるんだらうと思うのですが、地元への誘客、または消費拡大も見込めるということから、この2020のオリンピック大会は、まさに地酒をアピールする、絶好の機会であらうというように思います。

イベントにおきましては、アメリカを主とする外国人を対象にして、日本酒のPR、販売、そして、新たな顧客層の開拓と外国輸出に向けたテストマーケティングを行って、各都市の酒造に興味を持ってもらって、インバウンドにもつなげていきたいと思います。みなさん、よろしいでしょうか。

それでは、そのような形で、またさらに企画の中身を詰めさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

続きまして、報告事項に移らしていただきたいと思います。これまで、今年で5回目を数えますが、この間、それぞれ具体的に1対1のケースもありますし、いろいろないくつかの都市が連携してというような形もございますけれども、いろいろな取り組みが始まっております。連携都市間の連携についてということと、第4回フォーラム以降の取り組み状況について、ふたつに分けて報告をさせていただきます。まず、報告事項の1の(1)「甦れ自分。みなかみ、ヘルスツーリズムについて」みなかみ町の笠木副町長様からご報告をお願いしたいと思います。

(3) 報告事項 1

報告事項 1-1 みなかみ町笠木副町長「甦れ自分。みなかみ、ヘルスツーリズムについて」

みなかみ町・南魚沼市・さいたま市交流事業（報告事項 1 資料 3～6 ページ）

それでは、私の方からは、甦れ自分。みなかみヘルスツーリズムの事業の報告をさせていただきます。こちらの方は、南魚沼市さん、そして、さいたま市さんと連携をさせていただいた事業ということになっております。まず、みなかみ町なのですが、みなかみ町は、これまで恵まれた大自然、そして、観光資源をヘルスケアという切り口において全国に発信をいたしまして、自分の体、内なるバイオリズムを回復するというものを考えて商品を企画しておりました。平成28年にはヘルスツーリズム推進協議会というものを立ち上げて、コンセプトといたしましては「GO WILD for our LIFE」というものを合言葉に、都市生活者が内なる自然バイオリズムをチューニングするための自然豊かなフィールド、という形で推進をしてきておりました。この取り組みを、このヘルスツーリズムというものをテーマに商品化したものを、連携都市においても健康経営に取り組む企業、起業者に提供する仕組みを作るというものを目的に連携事業を推進をしました。こちらのヘルスツーリズムの開発に関わる3つの要素と大切にしている3つの要素というものがございます。開発している3つの要素は、1つめが運動ということで、本来の自らの身体性を回復していこう、そして2つめが休養ということで、良質な睡眠そして休養をとっていこう、そして3つめが栄養ということで、体の中から調整をしていこうという、3つの要素から成り立っております。大切にしている要素といたしましては、継続、心身の状態をよい状態で継続をさせていくと、そして2つめとすると、その体験を自ら言葉にするというか、こういう体験をして、自分の体がこういうふう的良好な状態になったというものを言葉にしながら、言葉と体をうまくバランスをとっていくと。そして3つめが、計画ということで、数値的なものも確認をしながら、体の調整を図っていくというもので取り組みをしておりました。そして3つの、南魚沼市さんとさいたま市さんの事業の実施ということですが、今回は、温めるというものをテーマに、自然豊かなみなかみ町のフィールドで温泉旅館に滞在をしていただきまして、特別に考案された回復プランを検証するモニターツアーというものを実施させていただきました。1泊2日のモニターツアーとなりましたけれども、まず1日目は、午前中に玄米餅の麴汁のお汁を食させていただきました。

そして午後からはスノーシューということで、ゆったりしたコースで、スノーシューで大自然を満喫をしていただきました。そして夕食には、みなかみボルシチ等を食していただいております。そして夕食後にはヨガ体操をして、心身を整えていただきました。そして翌朝ですけれども、2日目は、また、朝からヨガをしていただき、お昼には、あずきのカイロづくりというものをしていた

だきながら、心身を整えていただく、穏やかに過ごせるように体調を整えるプランを体験をしていただきました。そして、その成果ですけれども、おおむね、みなさまには、よい感触をいただいているのかなと思っております。9名が参加ということで、アンケート数とすると限られてはいるんですけれども、その中でも、今回の体験、ツアーによって、内臓が休まった、体が温まったというようなモニターツアーのコンセプト通りのある程度の結果も得られたのかなと思っております。そして、体験をした後の感想としましては、生活習慣を改善したいとか、この宿泊プランに今後も参加したい、あるいは、家族とかお友達にも紹介をしたいということで、良好な反応であると思っております。そして、今後の展望ですけれども、この東日本連携のヘルスツーリズムと、ということで、各都市が持っております魅力ある商品、これを単に集めたというのではなくて、健康という切り口に特化をして、編集しなおすことで新たな顧客のターゲットですとか、そういうものも掴めるのかなと思っております。特に欧米の方とかは健康志向度が強いと思いますので、これが、また、新たな切り口になるのかなと考えております。私からの報告は以上になります。ありがとうございました。

さいたま市清水市長

ありがとうございました。ただいまの、みなかみ町様からの報告について、何かご意見とかあるいはご感想とかありましたら、よろしくお願ひします。よろしいですか。それでは、無いようでございますので、次の報告事項に移らせていただきたいと思います。続いては、(2)雪を利用した熱中症予防対策についてということで、南魚沼市の高野部長さんによろしくお願ひしたいと思います。

報告事項 1-2 南魚沼市高野部長「雪を利用した熱中症予防対策について」

南魚沼市・さいたま市交流事業（報告事項 1 資料 7～10 ページ）

私の方からは、雪を利用した熱中症予防対策についてご説明させていただきます。まず、事業目的をご覧ください。この事業に関しましては、昨年開催されました、東日本連携フォーラムにおきまして、雪を活用した暑さ対策をご提案させていただき、実施の運びとなったものでございます。東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会におきましては、さいたま市様がサッカーとバスケットボールの開催都市となっております。今年度はそのテストマッチにおいて、雪を活用しての暑さ対策を実施いたしました。費用については、環境省の実証事業に採択をいただきまして、全額を国費負担で実施することができました。なお、資料に写真があります、スノーパック、チャック付きのビニール袋に雪を詰めたもので、気軽に持ち運びができることもありまして、利用者様から大変好評いただいております。続きまして、事業の実施状況について説明いたします。8月4日に、埼玉スタジアムにおきまして雪のクーラーによるテント冷房、スノーパックの配布、ミストファンの設置、暑さ指数の計測を行いました。また、8月25日には、さいたまスーパーアリーナにおいて同様の内容で熱中症予防対策を実施するほか、さいたま市様が実施した気運醸成のための1年前イベントと連携して、雪の滑り台による、にぎやかさをさせていただきました。なお、資料に写真があります雪のクーラーは、300リットルの水槽に水と雪を入れて作った冷水を循環させて、ファンコイルユニットで熱交換し冷房するという仕組みでございます。続きまして、成果と今後の展望についてであります。結果は、資料記載の通りでございますが雪のクーラーによる冷房は、十分な効果があったと考えております。今後、展望といたしましては、来年度の本番に向けて実施内容や規模の検討を行い、オリンピック本番までの効果的な熱中症予防対策につなげていきたいと考えております。報告は以上でございます。

魚沼市東川副市長

ただいまの南魚沼市の事業の内容につきまして、同じ雪国として非常に有効な方法かなと思っております。今回、埼玉スタジアム、さいたまスーパーアリーナで実証されたということで、来年のオリンピック本番と言いますか、そういう場面でこの雪を暑さ対策等で活用できるかどうか、見通しとかがあれば、ぜひ協力できる部分は協力させていただきたいと思っておりますので、お聞きしたいと思ひました。

南魚沼市高野部長

雪につきましては、魚沼市さんも私たちと同様に売るほどありますので、ぜひ、また一緒に連携させていただければと思います。始まる前、映像でも流れてたのですが、NHKでも取り上げていただいて、雪を除雪車で積み上げまして、そこを木材チップで被覆いたします。約50センチ程度。それによって、夏場も若干自然に減る部分があるんですけど、十分雪の量としては対応できると、実証実験では2,000立米溜めております。それで夏場、7月、8月まででも、まだ、3割、4割は残っておりますので、今度は被覆を外して雪を除雪車で積んで、今回はJR貨物とタイアップしまして、東京の方にはJR貨物を使って搬出してあります。規模

的にいいますと、イメージなんですけど、まるまるひがしにほんのビル一つ分ぐらいの大きさじゃないかなと思っております。ちなみにチップ材は再利用しております。

さいたま市清水市長

ほかにはいかがでしょうか。多分、そういう雪室というか、雪室倉庫みたいなのが、食品を冷やしたりとか、いろんな活用もできるのだらうと思いますので、また今後、そういった活用についてはいろいろ検討していくということも必要なと思いますけども。ほかにはいかがでしょうか。私たちが普段あまり雪と接する機会が、年に1, 2回、降る時がありますけども、降っても10センチも降るかどうかという世界ですので、なかなか雪国のみなさんのご苦労が分からない部分もありますし、また、雪の逆にいうと良さを感じる機会が少ないので、ぜひ、こんな機会に雪の良さをさらに発信していただければというように思います。ありがとうございます。ほかにはよろしいでしょうか。それでは、次に移らせていただきたいと思います。次の報告事項は、(3)、スポーツコンテンツを活用した連携について、ということで上田市の柳原部長様からお願いをしたいと思います。

報告事項 1-3 上田市柳原部長「スポーツコンテンツを活用した連携について」

上田市・三条市・みなかみ町交流事業（報告事項 1 資料 11～14 ページ）

それでは、ご報告を申し上げます。スポーツコンテンツを活用した連携ということで、三条市さんとみなかみ町さんとの連携ということでございます。まずは最初に事業の目的でございますが、近年、スポーツを通じた観光誘客ですとか魅力ある観光地作りということが、広まっていると感じております。しかしながら、単一の自治体だけでの取り組みですと、何度でも訪れるお客様に飽きられてしまう可能性もあると、特にスポーツをされているみなさんについては、いろいろと全国を回られていろんな大会に出られているというようなこともありまして、東日本の各都市で行われている同じ系列のこういったスポーツコンテンツを集約しまして、連携都市間でフィールドに変化をつけて体験できる、何回も訪れていただけるようなPRを展開するというようなものがあります。これによりまして、各都市間の対流の創出ですとか、新たな参加者の獲得につなげていきたいというような、そのような取り組みでございます。次の2の事業の実施状況でありますけれども、今回のこのスポーツコンテンツにつきましては、特にスカイランニングを中心に連携をさせていただきました。このスカイランニングでございますけれども、概ね2,000メーター級の山を一挙に駆け上がって順位を競うというものでございまして、山だけではなくて高層ビルを会場とした種目もあるということで、公認の大会があるというようなことでございます。このスカイランニングを中心に三条市さん、みなかみ町さんと上田市と連携してですね、お互いに誘客促進ですとか、魅力発信を図ってきたというものでございます。3の成果でございますけれども、各大会の参加者の方には外国人も非常に多く、特に三条市さんにつきましては、世界大会もあったということで世界のトップランナーにもPRができたというようなことでございます。上田市についても再来年、アジア大会の開催をというような話も来ておりまして、新しい展開が図れるのかなと考えております。また、今後の展望でありますけれども、引き続き開催都市間が連携をしてそれぞれ告知等をお互いに行う中で、参加者の拡大を図っていきたくて思っております。また、今年12月ですが、日本スカイランニング協会とも連携して、この大宮でトップアスリートと交流するイベントの開催を予定をしております。また、首都圏のPRも引き続き、実施をしてみたいと考えているところでございます。上田市からの報告は以上でございます。

さいたま市清水市長

ありがとうございました。ただいまの報告について、何かご意見等はございますでしょうか。今回はスカイランニングということでありましたけれども、おそらくかなりいろんな地域でいろんなスポーツイベントがあって、例えば私たちも、自転車のツール・ド・フランスさいたまクリテリウムをやっていますが、今年、宇都宮市さんのジャパンカップとコラボさせていただいて、共同でポスターを作って、JRさんとか東武鉄道さんのご協力をいただいて貼らせていただいたりもしましたし、自転車やウォーキング大会なんかも、私たちも今、県内では4つか5つぐらいの市町と協力し合って、時期がそれぞれ違いますので、それぞれの大会に出てもらいやすいようにスタンプラリーをやったり、そのようなこともやらせていただいておりますが、スカイランニングはじめ、それぞれスポーツで、それぞれの地域に誘客をしていくということもすごく重要ではないかというように思いますけれども、また、ぜひ、併せて、そういったことにも取り組んでいただければと、このように思っているところであります。それでは、質問等無いようでございますので、続いての報告事項に移らせていただきたいと思います。

続いては、(4) Jリーグチームによる連携について、金沢市の村山副市長さんをお願いしたいと思います

報告事項 1-4 金沢市村山副市長「Jリーグチームによる連携について」

金沢市・さいたま市交流事業（報告事項 1 資料 15～18 ページ）

金沢市の村山でございます。穏やかなスライドからいきなり派手なスライドになりましたけれども、この写真は、昨年 NACK 5 スタジアム大宮で、金沢市の観光 PR をさせていただいた時のものでございます。下のスライドに行きまして、本市ではスポーツ文化推進条例を施行しまして、スポーツで人と街を元気にすることを積極的に取り組んでございます。観光部局ではプロスポーツの観戦のために、お金をかけてわざわざ金沢まで来ていただいているということで、サポーターの方には試合を観戦するだけではなくて、できれば宿泊していただいて、観光して金沢の街と文化を味わっていただきたいということで、地元のプロスポーツチームと連携してございます。中でも、Jリーグでございますが、地域に密着した活動を続けていらっしゃいますし、熱狂的なサポーターも非常に多いと、そしてチーム数、年間試合数も非常に多いので、アウェイサポーターの来場が一定数見込まれるということで、本市でも連携して取り組ませていただいております。次のスライドになりますけれども、さいたま市様と大宮アルディージャ様には、昨年 NACK 5 スタジアム大宮での観光 PR にご協力いただきました。今年も 10 月 12 日に観光 PR を予定してございましたけれども、残念ながら、台風 19 号によりプロモーションは中止となりました。ただ 11 月 24 日、これは Jリーグのリーグ最終戦、現在 J2 で 4 位の大宮アルディージャさんの自動昇格、あるいは入れ替え戦かというところがかかった大事な試合だと思っております。ツエーゲン金沢は現在 10 位でございまして、なんとか頑張りますけれども、大宮サポーターの方にはぜひ期待して来ていただきつつ、全力でおもてなしをしたいというように考えてございます。現在、J1 から J3、この東日本連携の都市、所在するチームは 12 チームでございます。ただいま、J1 のチームの方にはツエーゲンが J1 になるのはなかなか難しいかなと、現在のところ思っておりますけれども、J3 の方が J2 に上がった際、あるいは J2 のチーム同士で、こういった取り組みを広げていければというように思っております。以上でございます

さいたま市清水市長

ありがとうございます。これらについて、何かご意見等はございますでしょうか。私の方から山野市長さんにはサポーターを駅でお出迎えいただいたりして、大変お世話になりました。ありがとうございます。さいたま市でも、特に大宮アルディージャ、大宮の街としてはアウェイのお客さんを積極的に受け入れようということで、特に対戦チームのみなさんが気持ちよく街で飲んでいただいて楽しんでいただくということで、そういったおもてなしというか受け入れも、積極的にやっついこうというような取り組みをさせていただいたりもしています。せっかくスポーツを通じていろんな交流が行われる訳ですので、ぜひそういったものを活用することがすごく重要なことじゃないかと思っております。Jリーグのチームがある自治体、無いところもございますので、もしあるところについては、そういった形でまた発展をさせていただければと思います。ありがとうございます。それでは、続きまして、(5) 修学旅行の誘致による連携ということについて、引き続き、これも金沢市の村山副市長さんをお願いしたいと思います。

報告事項 1-5 金沢市村山副市長「修学旅行の誘致による連携について」

金沢市・さいたま市交流事業（報告事項 1 資料 19～22 ページ）

はい、失礼いたします。写真は金沢駅の鼓門でございます。先日 10 月 27 日の日曜日には金沢マラソン、この鼓門を通りまして、舞台とさせていただいて開催することができました。また当日には、富山マラソンも開催されまして、金沢マラソンでも 1 万 5,000 人の参加者のうちの 8,000 人は県外の方、さらに 1,000 人、国外の方が来られて、首都圏、東北からも 3,000 人ほどの方が来られるというような非常に大きな大会でございました。JR 東日本さん、ここに来ていただけてますけれども、JR 東日本、西日本さんにご協力いただきまして 10 月 25 日、この金沢マラソンの 2 日前に開通していただきました。この場をお借りしてというか、御礼を申し上げたいというふうに思っております。次のスライド、下のスライドでございますけれども、本市では北陸新幹線開業の 2 年前、平成 25 年から首都圏の中学校・高校に対して修学旅行の誘致に取り組んでまいりました。今年度につきましては、過去最高の 35 校が金沢を訪問していただけるということで、北陸新幹線の連合体輸送という JR が指定した列車を使うと、乗車料、特急料金が半額になるというような制度、非常に多くの方に来てもらえるということでございます。次のスライドですけれども、金沢ならではの修学旅行ということで、こちら紹介させていただきますと、金沢で古くから受け継がれてきました伝統工芸や文化を取り入れた、オリジナルの修学旅行体験メニューを用意してございます。金箔貼りや加賀友禅の彩色、和菓子や郷土料理づくり、茶道あるいはお香の香道などの体験、これは一人当たり 500 円を参加の生徒さんに対して補助させていただいております。また、加

賀宝生能、お能や金沢芸妓、芸妓さんの体験に触れる、こちらも参加費一人当たり 500 円という破格の価格で、本物を体験するメニューを揃えています。また、本市には古い街並みも多く残っておりまして、城下町の風情も色濃く残しておりますので、こういった街並みや景観も、金沢らしい修学旅行としておすすめしてございます。今後の展望でございますが、さいたま市さまのご縁から、来週 11 月 7 日に、さいたま市校長会において金沢市長山野が修学旅行のトップセールスを行う機会をいただきました。全国の各都市の方にも市長が外向きまして、機会をいただければ、こういった説明をさせていただく予定でございます。今後も、さいたま市さんをはじめとしまして、修学旅行の誘客に努めてまいりたいというように考えてございます。以上でございます。

さいたま市清水市長

ありがとうございました。ただいまの発表について、何かご質問とか、ご意見等ございますでしょうか。魚沼市さんはよろしいですか。

魚沼市東川副市長

非常に修学旅行のようなものっていうのは、割と小学校、中学校まで、遠方にも行く機会が多くあるということですので、魚沼市は修学旅行ではないですけども、中学生、東京 23 区の足立区や江戸川区などの、東京の小中学校の大勢学習の受け入れなどもしております、これは児童といいますか、義務教育期間の連携というのも非常に自治体間連携の 1 つの事例として、力を入れて取り組んでいく必要があるかなというように思いました。

那須塩原市渡辺市長

ちょっと教えてほしいんですけども、最初に 2 年前から修学旅行、教育旅行の誘致ということなんです、主にたぶん首都圏なんだろうけれども、金沢の方に来るその教育旅行っていうのは小中高でどこが多いのか。あと首都圏のほかってどのエリアから来るのか、やっぱり首都圏が一番なのか、その辺をちょっと教えていただきたい。

金沢市村山副市長

やはりプロモーション活動、これまでも行ってきたということと、それから友好交流都市、協定結んでおります文京区さん、目黒区さん、板橋区さんといったところに直接お話をさせていただいているということもありまして、そちらからが比較的多いかと思えますし、あとやはり北陸新幹線開業後ということで注目していただいて、プロモーションを行ってなくても来ていただいているところもたくさんございます。今、ホテルの開業ラッシュになっておりまして、そういったところだと、平日の宿泊の入り込みがなかなか、土日のキャパはそれでも足りてないようになってきますけれども、平日を狙ったところで修学旅行の生徒さんにぜひ来ていただきたいと思っております。

さいたま市清水市長

他には、いかがでしょうか。それでは、次の報告に移らせていただきたいと思えます。

(6) 教育旅行の誘致による連携ということで会津若松市さんからお願いいたします。

報告事項 1-6 会津若松市室井市長「教育旅行の誘致による連携について」

会津若松市・さいたま市交流事業（報告事項 1 資料 23~25 ページ）

さいたま市さんに本当にお世話になっておりますけれども、連携をさせて、今スタートさせていただいているところでございます。まず初めに事業の目的と書いてありますが、このグラフをご覧いただきたいと思えます。我々にとって象徴的なのは、平成 22 年までは 841 校来ていただいておりましたけれども、残念ながらあの地震と原発事故で、非常に私どものところは安全であったにもかかわらず、やはりそういう意味では風評被害が続いてまいりましたが、おかげさまで 670 校まで戻しております。このために教育プロモーションということで、専門の担当者を置きまして、従来お邪魔していたところに現況の説明は繰り返し行わせていただいております。今般、金沢市さんはもう来月ということでございますが、10 月 9 日に教育委員会さまのご理解もいただきまして、104 校の小学校の皆さんのところでプロモーションをさせていただきました。また、学校宛にアンケートも差し上げておりますので、いろんな反応があるのかなと期待をしておりますけれども、改めて我々の状況も理解していただいたうえで、教育旅行は家族で行く旅行ではなくて、同じその年代の人が一緒に行動するという、班別行動なんかは私どもの修学旅行の売りで、事前学習をしていただいて、市内の公共交通機関を使っていただくということで周っていただくケースが非常に多くて、どちらかと言うと、たしか小学校のほうが比率が高い。そして、なおかつ小学校っていうと木曜泊まりの金曜帰りという感じの旅行形態が非常に多くて、時期によっては非常に込み合う状況もありますが、まだまだ元に戻っていないということでございますので、清水市長に

はぜひ今後ともご支援をいただければということで、あと皆様方にも今の状況、会津は、うちだけ大丈夫だというと怒られそうですが、元気にやっておりますので、ぜひ足をお運びいただきたいと思います。以上でございます。

さいたま市清水市長

ありがとうございました。他には何か、ただいまの発表について何かご意見等、ご質問等ありますでしょうか。それでは、報告事項の1については以上で終わらせていただきます。

続きまして、報告事項2としまして、昨年行いました第4回のフォーラム以降の取り組み状況について報告をしていただきたいと思います。報告事項2の(1)商工会議所、また商工会の連携についてさいたま商工会議所の佐伯会頭をお願いをしたいと思います。よろしく申し上げます。

以上、報告事項1終了

(4) 報告事項2

報告事項2-1 さいたま商工会議所佐伯様「商工会議所・商工会連携について」(報告事項2資料 2~10ページ)

それでは、ただいまご紹介をいただきましたさいたま商工会議所会頭の佐伯鋼兵と申します。今日は貴重な時間をいただきましてありがとうございました。今、市長からお話があったように、私ども今年の3月28日に、東日本連携センターが発足いたしまして、通称「まるまるひがしにほん」ということで、さいたま市と私どもで運営をさせていただいている関係で、この報告をさせていただくことになりました。おかげで1階の物販のほうは大変順調で、また好評でもありまして、もう40万を超えて、50万人近くになってまいりました。一方、2階は私ども商工会議所が経済ということで主に力を入れまして、ビジネスマッチングをしておりますが、徐々にではありますが商談が成立してくるような状況にもあります。今後さらにこのことには仕掛けをして、この今日参加いただいている皆様方の連携に役立てるようにしたいなと思っています。一つは野菜も魚も、特に北陸、東北、北海道は新鮮なものがありますから、先ほど話もございましたが、大きな荷物は別のところに積むような車両ができています。この大量は別としても野菜、新鮮な魚が、大宮の駅前ですから、大宮に着けばすぐ販売ができるという条件がありますので、こういうところにもこれから力を注いだらいいかなと思っています。なお、各都市の商工会議所、あるいは商工会にも連絡をさせていただきまして、これらの連携をさらに深めていく必要があるかなと、こういうふうにも今思っているところでもございます。ぜひその節には、よろしくお願ひしたいと思います。今日はスライドで一部、簡単にご説明させていただきますが、私どもは事務局が来ておりますので事務局の方から説明をさせていただきますが、よろしくお願ひいたします。

さいたま商工会議所黒金事務局長

それでは事務局の黒金でございますが、私共の事業、簡単にご説明をさせていただきたいと思います。先ほど、会頭のほうからご説明させていただきましたように私ども、特にあのビジネスマッチングの方、注力をさせていただいております。お手元の資料、おめくりをいただければと思いますけど、私どもからは3点、具体的な事業をご紹介させていただきます。右側の上に4ページと書いてありますビジネスマッチングの取り組みの部分でございますけれども、まず下段のミニ商談会でございます。こちらはいま、業種を問わず省力化ですとか生産性向上の取り組みがテーマになっておりますけれども、その一環としまして、私どもボトルのラベル張りの自動化の商談を行ったところでございます。ボトルは円筒形になっていまして、ラベルが非常に貼りづらいということで手作業で行われているのが実際でございますけれども、自動化の機械を製造された企業さんと飲料メーカーさんとの商談の実施をさせていただいたところでございまして、すでに商談、また成立に向けた協議が進められている、というところでございます。1枚おめくりをいただきまして、上段6ページ目でございますけれども、こちら函館商工会議所さんと私どもさいたま商工会議所のビジネスマッチングの商談会でございます。こちらはかなりメディアのほうにも取り上げていただいたところでございますけれども、8月22日、こちらは当日、1階で函館の物産展が実施をされていらっしゃるのですけれども、その参加企業さんと私共の会員の企業のパイヤーさんとの商談をさせていただいた、というところでございます。乳製品、海産物をはじめ、かなり商談も順調に進んでいるということで、かなり成立に向けてこちらも進んでいるというところでございます。あと1点、下段の部分でございますけれども、今週の29日の火曜日にまだ実施したばかりの事業でございますけれども、東日本工学産業サミットの開催でございます。実は私どもさいたま市、工学関連の企業の集積をしている地域でございますけれども、それと同様に、集積をしている東京の板橋区と栃木県の企業

の皆様方、大学の皆様方にご集合いただいて、はじめてこのサミットを開催したというところでございます。技術の先端、技術の情報交換ですとか連携のニーズの情報交換をさせていただいたというところでございます。まだ、開催をしたばかりというところでございますけれども、今後こうした各企業を地域の強みを生かしながら企業間連携にもつなげていければという取り組みでございます。あと最後に、1点だけ情報共有というところで、1枚おめくりをいただいて最後のページ、10ページ目でございますけれども、こちら来年の2月22日でございますけれども、私共のさいたま市の岩槻区に「岩槻人形博物館」と「にぎわい交流館いわつき」が同時オープンするというところでございます。いずれもさいたま市さんの建物というところでございますけれども、来年の東京オリンピック、パラリンピックを控えまして、私どももさいたま市の新たなにぎわいの拠点として大きな期待を寄せているところでございます。特に「にぎわい交流館いわつき」につきましては、私共が指定管理を担わせていただくというところもでございます。このセンターと交流館の連携をして、相乗効果もあげていければなと思っているところでございます。ぜひ皆様方に置かれましては一度、足を運んでいただければと思いますし、前段で議論のございました周遊ルートの一つとしても今後ぜひご検討いただければと思っております。簡単でございますが以上でございます。よろしくお願いいたします。

さいたま市清水市長

ありがとうございました。だいまの報告について何かご質問等ございますでしょうか？それでは無いようでございますので、また次に移らせていただきます。(2)でございますが、東日本連携推進協議会についてでございます。東日本連携推進協議会は大宮駅周辺にございます大型商業施設の皆さんが、まさにチームを組んで、東日本の連携、あるいは活性化に協力をしようということで組んでいただいているグループでございます。それでは東日本連携推進協議会の会長、株式会社高島屋大宮店の増井店長お願い致します。

報告事項2-2 東日本連携推進協議会大宮高島屋増井店長「東日本連携推進協議会について」(報告事項2資料 11~23ページ)

よろしくお願いいたします。ちょっと振り返りも兼ねて簡単に私ども東日本連携推進協議会の内容、組織からご説明をさせていただきます。私ども2016年に発足を致しまして、いま活動の4年目を迎えているというところでございます。地方創生推進交付金の活用事業と致しまして、さいたま市の協力を仰ぎながら民間主体で魅力あるまちづくりですとか、賑わいの創出に取り組んでいるというのが手前どもの活動内容ということです。構成員につきましては、大宮駅周辺の7つの大型商業施設と事務局の8社で運営をしているという、そういう組織体になっております。活動内容自体は大きく2つに分かれまして、まず1つは8社共同のプロモーションを行っているというのが1つございます。それともう1つは、各店によります大型催事の運営というような形で構成しております。いま私ども大型店にとりましては、このまちづくり視点というのが非常に不可欠になってきているということでございまして、インターネットのようにマスに向かって一方的な発言を行うような商売とは異なりまして、手前どもはお客様の声を直に聞く機会を生かしながら、街で実際に生活をしている人、街で実際に働いている人の、その実態を見ながら街の将来を見据えて環境に適応しながら商売を行っていくのが、いま不可欠となってきている中では、このまちづくり視点をもって活動を行っているというところがございます。そういった中ではいま街の変化がどんどんさいたま市、大宮地区では生まれておりまして、例えば大門町二丁目ビルが出来たりですとか、複数のホテルができたり、等がある中では、今後ますます我々の果たすべき役割があるなど認識を持って取り組んでいるというところでございます。そんな視点を持ちまして活動の内容について少しだけ触れさせていただきたく思います。まずは次ページをお願いいたします。まず全体で行っている共通のプロモーションとしては、この3月の16日17日の2日間で大宮駅の周辺を楽しみながら街歩きをしていただくということを意図して『大宮からの挑戦状』という謎解きのイベントを行いました。2日間で約1,000名の方々に、市民の方々にご参加をいただいたということですが、この度、非常に好評でございまして、10時とともにスタートをして、16時までの時間帯を想定していたんですけれども、最初の1時間でイベントの受付終了というような非常に人気のあるイベントでございました。この度、この第2弾を11月の2日から4日までの3日間で開催をする予定でございます。今回は前回の3倍の規模、3,000名の市民の方々に対してこれの参加を今、募っているというところでございますのと、前回からさらに発展をさせて経済効果を狙ってクーポン券を最終的にこの謎解きのイベントが終わったら配布をさせていただいて、ぜひ大型商業施設までお立ち寄りくださいというようなかたちで経済循環を図りたいなど意図して開催をいたします。それから次に各店の取り組みでございますけれども、まずは大宮高島屋でございます。大宮高島屋では、年明けの1月の8日から13日までの1週間で、催し会場で物産展を開催しますという内容でございます。『東日本グルメ紀行』と題しまして、これまでの3回については秋口の開催でございましたが、今回は開催期を変えて東日本の冬のグルメをまた新しい切り口で紹介をしていくという取り組みをこれから行ってまいります。次に大宮アルシェでございます。大宮アルシェにつきましては、西口に非常に大きなモニターを掲げているビルになり

まして、こちらでは40日以上に渡ってこの東日本連携のプロモーション活動をビジョンで紹介をするという活動を行っていただきます。先般の台風の19号影響もあって一度ビジョンがちょっと不調になってしまったのですが、急ぎ修復をしていただきまして、また改めて今活動の内容について映像を映していただいているという、そういう状況でございます。続いて、そごう大宮店でございます。そごう大宮店につきましては、実はこの7月に海なし県、さいたまのまちに海を持ってこようということで『埼玉グルメ in 海の家』という、海岸を模したようなかたちでの催しを開催されておりますが、今回はその冬バージョンということで、『大宮駅前ゲレンデ』というような仮称で冬の鍋物を中心にこちらで食のグルメを楽しんでいただくという企画をこれから計画しております。次にパレスホテル大宮でございます。こちらは報告内容になりますけれども先般10月21日に『第3回目の東日本美食が集うガラディナー』というものを開催いたしました。都合210名の方にご参加をいただきまして、東日本の各地区を代表するシェフによりますフルコース形式のディナーを振舞っていただき、そこを皆さんで楽しんでいただいたということです。また並行して東日本の地場の生産者の方とその地産品をアワードという形で表彰するというようなことも併せて実施いたしました。さらにパレスホテル大宮につきましては、この11月から12月にかけて建物内の各レストランでフレンチ、中華、和食、カフェ、それぞれでこの東日本の自治体の名産品を使った料理を振る舞うということを今、企画をしております。続いて東急ハンズ大宮店でございます。ハンズさんにつきましては、こちらで報告事項でございますが、この夏に東北マルシェと題しまして4階にございますイベントスペースを使って東北のご当地グルメですとか、地酒の紹介、合わせてサブカルチャーグッズ等を紹介をしております。また、年に6回の開催ということで4階の同じイベントスペースを使って東日本地域に関連のあるクリエイターの方の活動を支援の目的として作品の紹介ですとかワークショップ等を開催して地域の皆さんに紹介をするということを行っております。それから大宮マルイでございます。昨今言われておりますSDGsに17のグローバル目標がございますけれども、こちらのいくつかの目標についてフォーカスしながら市民の皆様にはライフスタイルの提案をするという活動を行ってまいりました。9月についてはエコライフ、それから10月につきましてはウェルネスというかたちで店頭にてイベントを行ったというのが今回の活動の内容ということでございます。以上のような様々な活動を行いながらですね、ますます東日本との連携を強化していくための一端を担っていきなというところで本年も活動を行ってまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

さいたま市清水市長

ありがとうございました。ただいまの活動報告について、何かご意見あるいはご質問等ございますでしょうか？この協議会は大宮駅を中心にして、その周辺にあります大型商業施設がみんなで協力をしてやっつけていただいているという事業でございます。それでは続きまして、(3) まるまるひがしにほんについて私から報告をさせていただきますと思います。

報告事項2-3 さいたま市清水市長「まるまるひがしにほん(東日本連携センター)について」(報告事項2資料 24~37ページ)

東日本連携の理念でありますお互いに訪ねたくなる街を実現させるために、東日本の連携拠点、情報発信拠点として設置したのが、まるまるひがしにほん、東日本連携センターでございます。まるまるひがしにほんは東日本と新幹線6路線で繋がる大宮駅東口から歩いて1分の場所にございまして、すぐ目の前の交通量が休日でも1日約25,000人もある好立地に位置している場所でもございます。運営はさいたま市とさいたま商工会議所との共同で行っております。まるまるひがしにほんは第1回フォーラムで設置について方向性が示されまして東日本の交流拠点、情報発信拠点としてフォーラム参加の首長さんからの合意を得て大宮に設置することになりました。東日本の「ヒト、モノ、情報」が大宮に集まり、そのことがさらに東日本の交流人口の拡大、また経済活性化を促し、東日本全体の上昇性につなげていこうというものでございます。まるまるひがしにほんの1階は、シティプロモーション機能を担っております。東日本の都市による観光プロモーションイベントなどを実施する場でございます。また東日本各都市がイベントを繰り広げ、食、あるいは特産品、あるいは文化など各都市の情報を発信することで地方創生に貢献をしていきたいと考えております。東日本には先ほどお酒のイベントの話もございましたけれども、銘酒が多いことから、各地の地酒など常時16種類程度のお酒を用意しまして100円で試飲できるというコーナーも設置しております、非常に好評と伺っております。また、まるまるひがしにほんのオープンを記念しまして3月28日のオープニングの日から11日間、東日本連携都市を中心に11都市の皆さんにご協力をいただきまして、オープニングイベントを開催致しました。NHKなどでも報道された影響もありまして一時は動く隙間も無いほど盛況となって、期間中に延べで約37,000人の方々がご来場いただきました。また長野県上田市からは信州上田おもてなし武将隊でありますとか、また各地のゆるキャラなどにも応援に来ていただきまして、まるまるひがしにほんへの呼び込みに大変貢献をいただきました。ありがとうございました。また、ビジネス交流については先ほど、さいたま商工会議所からのご説明が

あった通りでございます。現在、東日本地域にゆかりのある市内企業経営者によるコミュニティづくりを進めておりまして、今後東日本地域同士のビジネス交流の取り組みをますます加速をさせていきたいと思っております。3月のオープニングから多くのイベントを開催しておりますが、先週末時点では約43万人の方にご来場頂いていると報告を受けております。1日あたりの来場者数は平日を含めて約2300人、土日祭日であれば3,000人から5,000人の来場があるというふう聞いております。出展をしてもらった都市の関係者からは大変好評を頂いているところでございます。続きまして飲食店等の連携事業、まるまるひがしにほんの店についてご説明をしたいと思います。制度の概要としましては、本年10月1日から運用を開始させていただきました。この制度の目的としましては、まるまるひがしにほんと市内の飲食店等との連携によって東日本の物産品を取り扱う飲食店等の数を増やしていこうと、そして市内飲食店等への集客と東日本の特産品の消費拡大を図っていこうという取り組みでございます。取り組み内容としましては、その1つとしては飲食店で東日本の特産品を取り扱って来客にわかるようにメニューに産地等の記載を行っていたとございます。また2つめとしましては、制度に賛同した飲食店には、まるまるひがしにほんで店舗情報を発信し、また、まるまるひがしにほんから、東日本地域の産地情報や、まるまるひがしにほんのイベント情報を提供してまいります。また3つめの取り組みとしましては、参加の掲示として、まるまるひがしにほんの店のシールを貼っていただいたり、ミニのぼりを店内に掲示をして頂いて東日本のいろいろな美味しい食材を扱っているということを大いにPRをしていただこうというものでございます。続きまして、「早期起業家教育事業（“さいたま”あんといれすくーる）」についてご説明をしたいと思います。これは、さいたま市が独自でやっております。小・中学生を対象にした早期起業家教育事業ということで、各地の特産品を使用して商品を企画してもらい、子供達が商品を企画して、そして子供達に販売をってもらうという事業でございます。本市では平成16年から、小学生の4年生から中学校3年生までを対象にして、チャレンジ精神、また想像力やチームワーク等の起業家精神を醸成し、将来社会で活躍できる力を身につけて地域経済を担う人材を育成するということを目的として本事業をやっております。事業内容としては、会社を設立し、そしてそこから商品企画また事業計画の作成、銀行融資、仕入れ、商品、企画商品の販売、決算までを行う、このビジネス体験をってもらうプログラムとなっております。今年度で16回目の実施となりますが、今回初めての取り組みとして函館市また会津若松市、郡山市、および上田市の皆様にご協力をいただきまして、東日本連携をテーマに東日本の都市の魅力をその土地の特産品を使ってPRする商品というものを企画販売させていただきました。各市から2品ずつ特産品をご紹介いただきまして、函館市の五稜郭公園をあしらいましたスルメイカ入りのピザパン、あるいは会津若松市のトマトとキュウリをジャムにし、それぞれのマスコットキャラに見立てたクッキー、あるいは郡山市のビッグアイを模した、かぼちゃゼリー、あるいは上田市のナガノパールを美ヶ原高原の夜景に見立てた大福など、個性豊かな、子供ならではの大変ユニークな発想の商品8つが企画をされまして、その小・中学生の企画に基づいて現地から仕入れまして、さいたま市内の事業者が加工して販売をさせていただきました。8月31日にその販売会が行われましたけれども、60人の子供達が8つのグループに分かれて前半組、後半組、4つのグループごとに午前、午後の計2回の販売を実施致しました。大きな声で呼び込みがあり移動販売を行ったり、かぼちゃ等の特産品を商品と一緒に並べたり、また商品がより良く見えるように工夫をして、どうすれば売れるかということをお子さんなりにいろいろ考えて販売を行っていただいた結果、見事全商品が完売をいたしました。また、早くに完売したグループも、まるまるひがしにほんに置いてありますパンフレットを利用し、店内や通りかかった方々に各自治体のPR活動を、販売が終わった後にも積極的にやってくれたと伺っています。子供達にとっても東日本を意識する貴重な機会になったと考えております。来年度についても今年度と同様に東日本連携というものをテーマにして、まるまるひがしにほんで販売を行っていきたくと考えておりますので、ぜひ皆様の引き続きのご協力、またうちのこういった商品も使って欲しいというものがあれば、またぜひ、ご紹介をいただければと思っております。まるまるひがしにほんに関する報告は以上となりますが、なにか質問等ございますでしょうか？

さいたま市清水市長

ありがとうございます。それぞれの地域の良さや、想い、そういったことも理解する上で大変重要な事業だと私たちも考えておりますので、またぜひ、いろんなアイデアをお寄せいただければと思います。以上で本日の議題または報告事項については全て終了致しました。長時間に渡りまして議論または報告をしていただきまして誠にありがとうございました。

以上、報告事項2終了

さいたま市清水市長「総評」

本日の協議の結果、第5回東日本連携創生フォーラム in さいたまにおきまして、また今後、連携して活動していくことが取りまとめられましたのでご報告をしたいと思います。まずはオリンピックを題材とした連携事業についてでございますが、オリンピックを題材とした連携事業としてアメリカをターゲットとして、オリンピックの前から戦略的に共同 PR を進めていくこと、また大会期間中の連携事業については、交通バスとのタイアップ企画、またイベントの集中開催、日本酒イベントの開催を含めて引き続き広域周遊ルート策定研究会で検討を行うことを確認させていただきました。取りまとめ事項としては以上となりますけれども、最後に一言申し上げさせていただきたいと思います。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会まで1年を切りました。来年は大勢のインバウンド観光客が来日する絶好の機会ということになりますので、この機を逃さずに東日本の連携としてしっかりと連携を深めてオリンピック後も見据えた中長期的な視野に立って東日本地域の皆様、みんなで元気にする取り組みを進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いを致します。また、今回いろんな被災をされたという自治体もたくさんあったと思っております。これらについても、また連携をして復旧あるいは復興のための取り組みなども、ぜひ連携して行えないかと思っておりますので、それらについても引き続き協議検討をさせていただければと思っておりますのでよろしくお願いいたします。それでは司会者のほうにお返しをしたいと思います。

2) フォトセッション

例年ポーズで記念撮影

上段左から上田市、氷見市、南魚沼市、金沢市、魚沼市、みなかみ町、三条市、新潟市
下段左から宇都宮市、盛岡市、那須塩原市、さいたま市、会津若松市、函館市、仙台市

座長さいたま市清水市長「まとめ内容概略」

それでは最初に取りまとめた内容について報告をしたいと思います。最後にも少し申し上げましたけれども、まずオリンピックを題材とした連携事業についてであります。オリンピックを題材とした連携事業としてアメリカをターゲットとしてオリンピックの前から戦略的に共同 PR を進めていくこと、大会期間中の連携事業については、交通バスとのタイアップ企画、イベントの集中開催、また日本酒イベントの開催を含めて、引き続き広域周遊ルートを策定研究会で検討を行うことを確認させていただきました。以上でございます。

質疑応答 なし

※文字色の説明 … 黒文字：メインの議題 / 赤文字：参考資料